



ラワン村水道説明会参加のマノボ民族の母子



2013年7月25日発行

NPO 法人ビラーンの医療と自立を支える会

(英文名略称・HANDS)

本部：〒227-0033 横浜市青葉区鴨志田町 516-11

TEL & FAX:045-500-9151

E-mail: hands-mindanao@nifty.com

<http://homepage3.nifty.com/hands/>

郵便振替口座 00210-5-72693

(加入者名) ビラーンの医療と自立を支える会

## 支援について考える

理事 古川順一

### 1. はじめに

チボリ国際里親の会より、HANDSに参加される皆様にご挨拶いたしたいと思えます。いろいろな思いを残しながら、チボリ国際里親の会の解散に立ち会われたことと思えます。私も元会長として残念な気がします。しかしながら、200名近い方が、引き続き里子の支援を続けると聞き、希望の火が消えなかったことに感謝したいと思えます。

### 2. 支援についての迷い

さて、私は時々、支援とはなにかと考えることがあります。具体的には、支援すべきかどうか？するとしたら誰を支援するのか？いつまでするのか？どの程度支援するのか？どのような方法で支援するのかという間です。皆様も同じような思いをお持ちになったことがあると思えます。

支援することによって、相手側に何か問題が生じるのではないかと？チボリ民族についていえば、支援を巡る現地での争いが、また、支援を受けられる人と受けられない人との格差が生じなかったかといえば、否定できません。

また、私のところには、国連のユニセフより、アフリカの子供たちの医療支援の案内が来ます。また、震災後、石巻市を訪問し、その被害の大きさに驚かされました。被災した方々に対して、なにかできることはないかと考えました。しかし、多種多様なすべての問題に関わることは、なかなかできません。そして自分の無力さを感じます。

### 3. 支援についての結論

私の結論は、他人の状況に関心を持つこと、

そして、できる範囲で支援・協力することは人間として必要であるということです。なぜならば、親兄弟だけでなく、見も知らぬ他人に対しても思いを及ぼすことができるのが人間の本質なのです

しかしながら、すべての人を助けることはできませんし、自分の生活・人生も大事です。宗教者でもない一個人としては、縁あって関わった問題にだけ限定しても、それはそれで一つの道だと考えています。

### 4. 他力本願

浄土真宗は、他力本願といわれます。阿弥陀如来が、あらゆる人々を、浄土往生せしめようと誓われた願い、つまり本願によって、南無阿弥陀仏と唱えることによって救済されると教えます。五木 寛之の『親鸞』を最近読んだこともあり、梅雨の合間、京都西本願寺をお参りし、「おかみそり」の儀式で導師がそのようにお話になっているのを聞きました。見方を変えれば、人が人を助けることには限界があるということでしょう。

### 5. 私の単純な信条：

- (1) 他人に関心を持ち、自分のできる範囲で関わっていく。
- (2) 他人の幸せは、自分の幸せと考える。
- (3) 経済的弱者のみでなく、肉体的・性的・精神的そして文化的弱者にも関心を持つ。
- (4) 人間のみでなく、自然界・環境問題にも関心を持つ。
- (5) 以上のために、情報収集・勉強、そして実践を心がける。

支援とは、差別しない心ではないでしょうか。